

3度目の全国消防操法大会出場が決定 市消防団ポンプ車の部で県大会優勝

8月29日、青森県消防学校で第27回青森県消防操法大会が行われ、ポンプ車の部で市消防団第5分団（平館龍太郎分団長）が優勝を飾りました。この大会は、消防の技術を競うもので2年に1度開催されています。ポンプ車の部には8地域の消防団が出場。6人1組で放水から撤収までの動作やタイムを競いました。

市消防団は、10月7日に東京都江東区で開催される全国消防操法大会に出場します。



全国大会出場を決めた市消防団第5分団の皆さん

稲生川に親しみ、水環境の大切さを知る 第10回稲生川ふれあい祭り

8月25日、稲生川ふれあい公園で第10回稲生川ふれあい祭りが開催され、稲生川周辺地域の住人など約300人が参加しました。この祭りは、稲生川せせらぎ活動委員会（平野隆夫会長）が、毎年開催しているものです。

会場では、ニジマスのつかみ取りやおもちゃのアヒルを川に流し、ゴールした速さを競うアヒルレースなどが行われ、参加者は稲生川と触れ合い、楽しいひと時を過ごしていました。



参加者は、泳ぎ回るニジマスに悪戦苦闘しながらつかみ取りに挑戦していました

Pick up

69年ぶりに姿を現す 十和田湖から旧陸軍機引き揚げ

9月5日、十和田湖畔宇樽部地区で十和田湖湖底に沈んでいた旧陸軍「一式双発高等練習機」の引き揚げ作業が行われ、1943年に不時着してから69年ぶりに、機体が姿を現しました。

作業を行ったのは青森県航空協会（大柳繁造会長）ら有志の皆さんで、この日は午前9時過ぎから作業を開始し、クレーンで吊り上げ、午前中に尾翼やタイヤ、エンジン2基、機首部分を引き揚げました。午後1時30分頃から作業を再開し、午後3時10分頃、歴史的瞬間を目撃しようと集まった約100人の見物客が見守る中、湖面から胴体部分、次いで主翼が姿を現し、引き揚げが完了しました。

大柳会長は「腐食はあるが、思った以上に状態がいい。修復にはどのくらいかかるかわからないが、復元させたい」と安堵の表情を浮かべながら、話していました。

作業を見学したかたは「機体を見て年月の長さを感じた。引き揚げられたことで亡くなった3人も浮かばれるのではないかと話し、冥福を祈っていました。

今後、機体は復元後、県立三沢航空科学館で展示する予定です。



◀機体の機首部分とエンジン2基



▶水中からゆっくりと姿を現す旧陸軍機



胴体部分に日の丸がはっきりと見えます。機体の状態を確かめる大柳会長（写真手前）